



# 1. 村田泰隆コレクション



2004/4/11 兵庫県小野市来住町  
(村田麻里子氏ご提供)

## 村田泰隆

1947年、京都市生まれ。1972年にニューヨーク大学数理統計学科を卒業後、株式会社村田製作所に入社し、2代目社長および会長を歴任した。蝶の研究家、写真家としても知られ、日本鱗翅学会理事、日本蝶類学会理事、日本昆虫協会理事を歴任したほか、京都蝶の会や大阪昆虫同好会などで活動した。蝶の化石研究にも力を注ぎ、その成果は日本蝶類学会の学会誌に掲載されている<sup>1,2</sup>。2018年、逝去。著書に、『夢蝶美』、『チョウのいる風景』、『飛ぶ宝石―蝶の情景―』、『蝶を追って』などがある<sup>3-6</sup>。

## コレクションの概要

村田泰隆コレクションは、蝶16,919頭、蛾109頭、その他7頭の計17,035頭で構成されている。最も古い個体は1910年に得られたチケニーウスバシロチョウ *Parnassius szechenyii* であるが、1960年代から2000年代のものが中心となっている。地域的にはアジア、南北アメリカ、ヨーロッパのものが多く、世界各地の代表的な美麗種については、ほぼ網羅されていることで有名であった。2014年発刊今森光彦著『世界のチョウ』は、当コレクションを用いて作成されている<sup>7</sup>。

村田泰隆氏ご自身の採集・飼育品、現地ガイドからの購入品が中心となっている。また、「京都蝶の会」や「大阪昆虫同好会」会員諸氏、国内や海外の蝶友等約200名からの交換・寄贈品も含まれており、蝶研究者界における村田氏の親交の広さを推測させる。このような標本の由来から、標本に付随するラベルの採集地・採集日のデータは信頼性が高く、学術的に貴重である。

特筆すべきものとして、各種変異を含む9種570頭のアグリアス（ミイロタテハ属）コレクション、当時分布が知られていた地

域すべてをカバーする62頭のオウゴンテングアゲハコレクション、ほとんどの種を含む838頭のウスバシロチョウ属コレクションなどがある。また、長年の収集により、非常に多数の異常型やバリエーションが見られる。顕著な異常型については、季刊誌「ゆずりは」に発表されている<sup>8-13</sup>。

コレクションの約1/3に相当する5,860頭は日本産の標本であり、日本で見られる蝶の大半の種（約190種）を網羅している。そのうち1,502頭は、村田氏が生まれ育った京都で採集されており、村田氏自身の採集品も多く含まれている。1950年代から2010年代にかけて蓄積されてきたコレクションには、現在では見られなくなった地域集団の標本も含まれており、日本の蝶の消長を理解する上での貴重な資料群となっている。また、ゼフィルス（ミドリシジミ類）などは、異常型や変異個体も丹念に蒐集されている。今回、こうしたコレクションの特色を活かして、日本列島の蝶類相を概観し、京都の蝶の今昔、アリと共に生きる蝶、ゼフィルスの多様性、そして危機に瀕する蝶について紹介したい。＜近藤・伊藤＞

